

# IV

## 東京が被災透析患者の受け入れをする場合の対応マニュアル



被災透析患者さんの集団避難に際しては、事前情報の正確性が大切である。何らかの安定した通信手段があり事前情報が正確であれば、避難先透析施設が1箇所の場合や、移動人数が十数人～数十人の場合であれば、当ネットワークの関与なしに一般的な各医療施設間での情報伝達で透析医療は提供できうるものと考えられる。

ただし、今回の被災透析患者さんの集団避難のように緊急かつ多数の患者さんの移動に際しては、正確な事前情報を得ることが難しいと想定され、それでも安全に透析医療を提供するには、行政と当ネットワークや各医療機関との連携や業務分担が重要と考える。そのうえで、迅速に受け入れ業務を遂行することが望まれ、今回経験したことを元にマニュアルを作製した（表1）。当ネットワークとしては、万が一にも大規模災害発生した時には、これを参考にしてより迅速な業務遂行を目指していきたいと考える。

表1 災害時における集団避難された透析患者への透析施設の斡旋業務マニュアル

### 災害時における集団避難された透析患者への 透析施設の斡旋業務マニュアル

① 緊急性のある患者や入院の必要な患者のトリアージ（医療スタッフ主導）

「透析患者個人票」を活用

緊急（当日）で透析が必要な患者・入院加療が必要な患者の選定  
（事前記入した透析患者個人票で最終透析日を確認する）  
⇒当日の受け入れ可能な医療機関を選定、斡旋、搬送へ

② 避難所の選定と患者リストの作成（行政側主導）

「透析患者個人票」を活用

③ 患者の割り振り（東京都区部災害時透析医療ネットワーク）

- 1) 翌日に透析が必要な患者から、透析施設を選定、斡旋へ。
- 2) 残りの患者の透析施設を選定、斡旋へ

※ 事前情報から、②患者リスト作成と避難所の選定が到着前に行われている場合は、トリアージの後順次透析施設の斡旋を行うものとする。

※ ③の割り振りに関しては、事務局のみでの対応が困難な場合には、避難所単位で東京都区部災害時透析医療ネットワークの各ブロックに応援要請や業務委託を適宜検討する。

※ 人手不足の際は、トリアージや応急処置においては避難に引率している医療スタッフへの応援要請を検討する。

# IV

また、今回の集団避難に際しては、行政との連携という課題が露呈した。それを踏まえ、当ネットワークが考える災害時に東京が被災透析患者の受け入れをする場合の流れを簡単にまとめた（図1）。これは行政との連携をイメージしやすくする目的でのまとめであり、災害時における避難などは東京都福祉局発行の『災害時における透析医療活動マニュアル』を参照いただきたい。

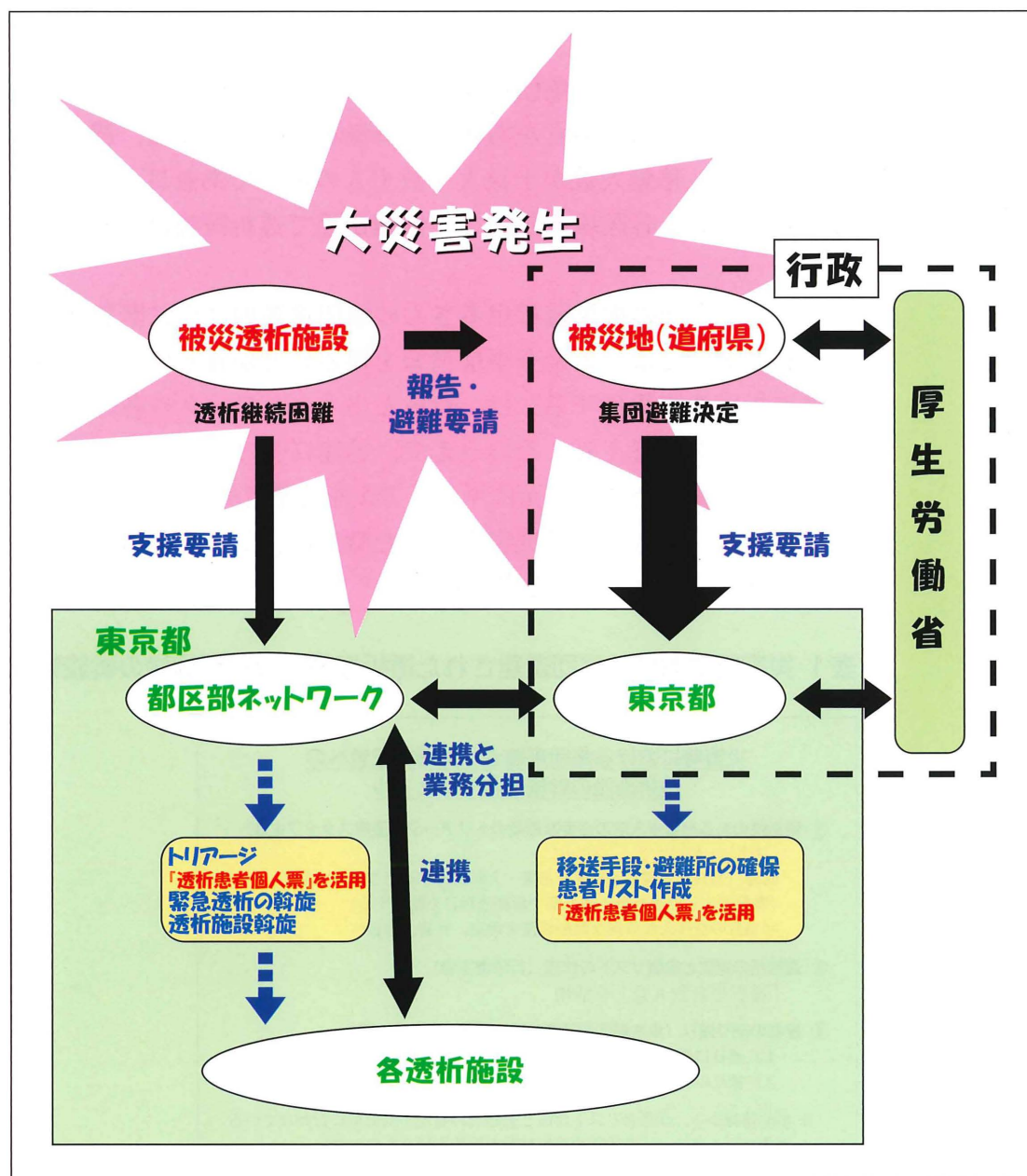


図1 災害時に東京が被災透析患者の受け入れをする場合の流れ

[ 文責：田中裕一（江東病院） ]